

# Vol.15

2025.12.1 発行

# ハンダタイムズ



埼玉工場 チームリーダー

## A.S

埼玉工場でチームリーダーを務める A.S.。リーマンショックにより、設計開発のキャリアを絶たれ、期せずして加工の世界に飛び込んだ。試練を乗り越え、その場所で新たなやりがいと誇りを見出すまでの軌跡をたどる。

### 予期せぬ転身。

### 設計開発から加工の道へ

前職では派遣社員として設計開発の仕事に従事していた A.S.。しかし、リーマンショックの煽りを受け、いわゆる「派遣切り」の憂き目に遭った。生活のために一時は別の仕事に就いたものの、「以前のように設計開発の仕事がしたい」と思いは募るばかり。転職をしようと、新しい職場を求めていたときに出会ったのが、ハンダ技研工業だった。

そして、希望の職種に応募をしたところ、残念ながら設計開発職の採用枠は既に埋まっていると言われた。すると前任の社長から「加工職だが、定年退職予定者の後任が空いている。そこに入ってみて

かどうか」と提案があった。加工の仕事は、学生時代にも経験があり、もともと興味があった分野だ。また、子育てに適した職場の立地や社長の人柄も魅力的だった。面接では、社長と1時間も世間話をし、その飾らない人柄に惹かれたという。希望職種がなくても、親身になって代案を提示してくれたこともありがたかった。「この会社なら働きやすいかもしれない」と、入社を決意した。

### 1人で2役を担った苦闘の日々

最も苦しかったのは、約4年前、1人で2役をこなさなければならなかった時期のこと。退職した前任者の仕事を1人で引き継いだため、数か月間は残業して終わらせるしか術がなかった。ももとの担当業務と引き継いだ業務、両方同時に急ぎの仕事が入ることも重なり、精神的に厳しい状況が続いた。

その時期、A.S.の心の支えになったのは、周りにいた仲間存在だ。当時は工場全体が忙しく、夜9～10時まで残業するメンバーも少なくなかった。彼

らに負けたくない一心で、仕事に打ち込んだ。

忘れられないエピソードもある。定時で帰宅した日、会社から「助けてくれ、協力業者から部品が届かない」と電話が入った。その部品を必要とする製品の検査日は、翌日に迫っている。急遽出社し、夜8時からプログラムを組み始め、加工を終えたのは翌朝の7時。まさに時間との戦いであり、綱渡りのような対応だった。

### 試行錯誤の先に宿る、モノづくりの達成感

その大変な時期を経て業務分担が再編成され、新しい機械も導入されるなど、仕事の負担はだいぶ軽減された。

そうした環境が整った今、最も達成感を感じるのは、NC旋盤のプログラムを組み上げ、思い通りの加工ができたときだという。機械の動きは、わずかな数字の入れ方の違いで変わるからだ。図面に描かれたものが現実になるよう、想像力を働かせ、試行錯誤していく。だからこそ、一発で思い通りの加工ができた瞬間は、この仕事の面白さと喜びをひときわ強く実感する。

### 未来へと続く、妥協なき探求

加工のプロフェッショナルとして、A.S.の探求は今も続く。

「現在、当社の主力を担うのは真鍮やアルミですが、将来的にはそれ以外の素材も加工できるようにしたい」と、新たな挑戦への意欲も見せる。



その一方で、会社の利益への貢献も忘れてはいいない。加工後の作業をなくし、工期の中で完結できるよう、日々の効率化にも意欲的だ。工具の選定といった細部にまで気を配る一方で、その目は常に未来を見据えている。

設計開発への道を絶たれ、辿り着いた加工の世界。逆境の中で見出した新たなやりがいを胸に、柴崎の探求は続く。その技術は、これからも埼玉工場を力強く支えていくことだろう。

## A.S. さんって どんな人？



埼玉工場  
マネージャー  
Y.T. さん

### Q1. A.S.さんは私にとって……

#### 真鍮の錬金術師

M & Aを境に、昭和の加工機が令和の最新式に入れ替わりました。この加工技術のタイムスリップ最前線で、今も戦い続けている A.S.さん。思考が無限ループし、ボヤキが止まらなくなったときも、成功へのきっかけを呼び込んでくれました。

### Q2. ここがすごい！

埼玉工場では、小さな工程改善から内製化への切り替えと、多くの改善を誇っています。改善と加工技術への飽くなき探求心、小さな一歩を確実に大きな一歩に進める粘り強さを持っています。

### Q3. Message

いつもお世話になっています。突拍子もないことばかり注文していますが、これからもよろしく願います。

# 2025年を 漢字一字で振り返る!

大きな転換期を迎えた2025年。

皆さんにとって、今年はどうな1年でしたでしょうか?

6名に「今年の漢字」を伺い、仕事やプライベートで  
心に残った出来事を語っていただきました。

それぞれの1年を、ご覧ください。



尼崎工場  
チームリーダー

T. Y.さん

## 激動の中で、改めて「人」と向き合う

2025年は企業間のM&Aや世代交代など、業界・客先を問わず「人」の移り変わりが大きく進みました。労働人口が減る中でAI市場が伸び、客先の基板増産依頼は嬉しいものでした。一方で、増員、技術力低下、人材獲得競争など「人」の問題にも直面しました。当社も橋田会長が御逝去され、大きな転換期です。激動の中にあっても真っ直ぐに「人」と向き合い、確かな指針を示して仕事に取り組んでいきたいと思ひます。

2025年の印象に残っていること

## 20年ぶりの再会で実感した「良い顔」

叔父の葬儀で久しぶりに親族が会し、20年ぶりに会う親戚もいました。皆しっかりと歳を取っており、印象の変化に驚きました。従兄妹の子どもにも初対面しましたが、相手は既に高校生。時の長

さを実感しました。皆が幸せそうな点に安堵し、私自身も「まともになっている!」と言われ(笑)、安心してもらえたようです。「40過ぎたら自分の顔に責任を持つ」との言葉どおり、また次の機会にも良い顔立ちで会えるよう成長したいと思ひます。



## 悲しみを乗り越え、未来への「転換点」

転機、転換点の年でした。グループ全体が大きな悲しみを経験し、進む方向の転換点を迎えました。同時に、自分を見つめ直す転機でもありました。これから新たな選択がたくさ  
んあると思ひます。2026年はこの転機を乗り越え、新しい挑戦に踏み出せる年にしていきたいと考えています。

2025年の印象に残っていること

## 壮観な車両製作と、テレビに映る誇り

株式会社トキオは線路の夜間作業に用いる保守用車のメーカー。2025年は約20年ぶりとなる車両製作に取り組みました。1台30tの車両を8台製作しており、工場に並ぶ姿は壮観です。この仕事に関わるだけでも幸せです。今年、テレビで鉄道会社の特集を見た際、夜間作業の様子が映りました。「映って

る!」と、自社車両が登場したときは、何事にも代え難い嬉しさを感じました。今後も長く人の役に立てくれるよう願っています。ぜひ、皆さんにも今製作している車両をご覧くださいと思います。



ハンダ技研  
工業株式会社 取締役  
株式会社トキオ  
専務取締役

S. M.さん



## 異常な猛暑と、作業環境改善への決意

2025年はまさに異常と言えるほどの猛暑でした。「息をするだけでも暑い」状況は過酷で危険なため、熱中症対策に取り組みました。2026年も同様の暑さが予想されるため、快適な作業環境を目指して今後も進めていきたいと思ひます。

2025年の印象に残っていること

## 愛猫のダイエット

我が家ではマンチカンの「モカ」を飼っています。足が短く小柄な猫種のはずが、2024年から太り始め巨大化してきました。家族と相談し、ダイエットにチャレンジ中です。

桜井工場  
サブマネージャー

K. K.さん



日田工場  
マネージャー

H. K.さん

## 孤独を消した、仲間との「繋がり」

2024年3月のマネージャー就任時、どうしても良いか悩んでいました。そのような中、他拠点と仕事をする機会がありました。何もできない私を皆さんがフォローしてくださり、仕事を進めることができました。孤独感が消え、気が楽になったと同時に、周りの皆さんに支えられていると実感しています。このご縁に恩を返し、新たな繋がりを作ることが良い仕事に結びつくと思ひます

2025年の印象に残っていること

## 娘の笑顔に見た「繋がり」の大切さ

高校3年の娘が、年末の吹奏楽部定期演奏会に向けて頑張っています。先日、日田市のお祭りで演奏する機会があり、老人ホームで演奏したとき

のこと。見知らぬおばあちゃんから「うちの孫にそっくり」と声をかけられ、普段の素っ気なさは対照的に、満面の笑顔で対応していたのには驚きました。娘なりに人との繋がりを大切にしようになったと嬉しく思ひました。



## 丹波篠山の誇り、豊作への感謝

兼業農家で休日に農業をしています。2025年は米価格が2024年の倍近くになり、喜ばしい年でした。米不足が原因だと思ひます。丹波篠山の大自然でできる仕事と農業を誇りに、今後も仕事と栽培を頑張ります。

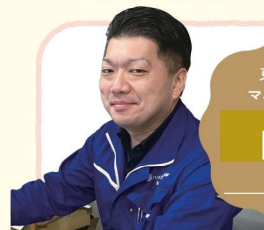
2025年の印象に残っていること

## ロボット導入による職場の自動化

篠山工場に入社して37年、鍛造チームの責任者をしています。近年、古い機械や人手不足が問題となっていました。しかし、2024年から改善が進み、ロボット2台が導入され、自動化が大変進んでいます。これから、この職場で利益を上げていきます。

篠山工場  
チームリーダー

Y. M.さん



東京工場  
マネージャー

R. S.さん

## 偉大な先輩から「継」いだバトン

東京工場は、ハンダ技研のカリスマ、I 取締役が3年3か月マネージャーを務められた工場です。I 取締役は多くの変化と改革をもたらしました。その職を2025年3月に引き「継」ぎました。まだまだ I 取締役の背中とは全く見えませんが、教わったことを大切に、いつの日か追い越せるよう努力するのみです。

2025年の印象に残っていること

## 世代を超えて「継」がれる想いと技術

下の娘が7歳の七五三を迎え、上の娘(10歳)と写真を撮りました。2人が着たのは、妻が子どもの頃の着物。良いものは時代が変わっても色褪せず、引き「継」がれると実感しました。ハンダの技術も色褪せないと確信し、良い伝統を後輩に引き「継」ぎたいと思ひます。

